



ニュージーランド便り

女性王国の話

中村満喜子

鹿島だち

十月十日、伊丹を飛立ったときから私の海外旅行が始った。日本から一万キロ、南半球の国ニュージーランドに、ロータリー・クラブ（京都北クラブ及びニュージーランド二九二地区）によって橋をかけていただき、機上の人となったのである。

若い間に出来る限りの経験を——どんな様や子供の世話をする前に少しおひまをいたってきたい——というのがそもそもの出発点であった。ニュージーランドを志してより、栄養士という職業柄彼らの食生活に興味を持ちはじめた。つまり、彼らが日本人の最も必要とする動物性タンパク質を多量にとっており、その多くは最近日本にどんどん輸入されている。マトン、チーズ、スキムミルク、玉ネギに至るまで私達のお台所にどんどんニュージーランド製品が入って来ている。それでひとつ彼らの食卓をのぞき、私達の食生活上のヒントを得させていたかどうか、という事になった。それとも一つ、世界中になりひびいたスキヤキソングを耳からだけでなく、本物の日本料理にしてお目にかけた

い、というのも私のささやかな願いであった。

私にとって「エヤーフランス」という名前は何となく食欲を感じさせる会社である。ホンコンまでの数時間に始めての機上食をいただく。新鮮鮭とあるが罐詰の味がする。セロリーは生の方が美味しいのにくったり煮込んである、と一人で文句をいいながらプラスチック製のマヨネーズのふたをとると急に中味がとび出して大失敗、気圧のいたずららしい。

夕方、ホンコンに到着、日本で会ったペインさんの出迎えをうけ、四日間彼女達のアパートで過ごすことになった。

漢字が町中にあふれ、東洋人の多い国であまり外国という気がしない。そのうえ中国人に間違えられること数回であった。四日間ほとんど毎日一人でぶらりと町に出かけて、貧民街のアパートや食品街の探訪を楽しんだ。恐ろしく急な坂道にずらりと並んだ八百屋や玉子屋は全て露天である。食事時でなくとも四六時中何かを食べ、それも大して暑くもないのに路上にゴザや机を持ち出して屋外で食事をする人達が多く、食卓を容易に観察出

来、私にとって好都合であった。四日目の真夜中近くホンコンを去りシドニーに向う。

明るい朝の光の下に美しい町を見たとき、自分は外国に来たんだという感情がわいて来た。日本で知りあつたカンタス航空の青年紳士の出迎をうけ、当の紳士の口ぞえで税関はフリーパス。町の真中にあるヒルトン・ホテルに直行し十一階の部屋から改めてシドニーの町並みをながめて後、ホンコンの水不足でたまつた洗濯物を浴槽の中で数時間かかつて洗ひ上げたときの気持よさは忘れられない。

翌日の午後、再び機上の人となりニュージラランドに向つた。

生活水準

高槻の工場に通勤していたころ、毎日の殺人的なラッシュアワーの中で「ああ人の少ない国に行つてみたいものだ」とよく考えたものである。

ニュージラランドは人口二五〇万、京都府の人口と大差がない。面積は北・南島を合せて日本の四国をのぞいた三島に等しいし、山もかなりある。人口は一年に五万づつ増えているのだがそれにして驚くばかりに少ない。

二万五千人以上の町を市と呼び全国に十八市ある。

ラッシュアワーといわれる時間でも乗物の中で人が立っているのをほとんどみかけないし、今年のお正月にある海岸がレジャーを楽しむ人で満員になったと報じている新聞の写真を見ても、車ばかりで人かげはちらほらであつた。

恵まれた気候の上になり立っている牧畜がこの国の主な産業である。五千万の羊、二百万の乳牛、六百五十万の子牛を含むその他の牛が広大で美しい牧場にすくすくと育っている。真冬の短期間をのぞいて年中牧草がしげり、まるで羊や牛のために出来た国のようにある。それに木材の成長も早く、森林の育成が容易である。EECとの関係で市場の問題が多少心配されたものの、これらの産物をどんどん海外に送り出している豊かな国であり、その生活水準もかなり高い。それに貧富の差が少いため誰でも節約しながら働くと比較的容易に海外旅行が出来るといわれている。物価はかなり高いが初任給が週一万円というのはざらにある。労働時間は週五日制で四十時間以内である。今後二十年間は、失業

問題が起らないだろうといわれているほど仕事につくことは容易である。一年間に百人に一軒の割で新しい家が建ち、人々は新しい家を建てることに興味を持っている。家中が非常に合理化され、特に台所はすばらしい。車、冷蔵庫、洗濯機、オーブン、電話、温水道のない家はまずない。そしてその合理化はどんな田舎に行っても同じように進んでいるのがこの国のいいところである。

この国を素晴らしいものにしていく一つに社会保障がある。子供は十六才迄一人一週につき七五〇円、老人は年令に応じて充分な年金が支払われ、病院も公立は全部無料（歯科を除く）子供の教育も公立であれば教材も含めて無料である。主婦や勤務を終えてから学ぶ大学も種々あるが政府の保障で非常に安く、大勢の人が利用している。税率は週給二万円の独身で一割以上、三千円近いから、かなり高いようである。ただし税金と社会保険を合せてであるし、バターやチーズなど政府の保障で半額で買えるものがありある。

クイーンの国

ニュージーランドはオーストラリア、カナダ

と同様英国の自治領でありクイーンの国である。国中いたるところにクイーンの写真がかげられ、ロータリー・クラブはもちろん婦人会、学校、それに映画館や劇場では全ての行事前か後にクイーンをほめたたえる。結婚式でも新郎新婦の前にまずクイーンのために乾杯するほどである。英国からの移民が多く、両親や先祖はほとんど英国人である。そのため町の名前や通りの名前も英国にちなんで名づけられている。

イギリス人に次いで多いのが原住民マオリ人である。現在十五、六万人、そのほとんどが暖い北島に住んでいる。日本人が日焼けして太るとマオリ人にそっくりになる。またマオリ語はアエイオウの母音が日本語と同じ、おまけに魚が好きで貝も生でよく食べる。性質は「よい越しの金はもたねえノ」という方で実によく食べ、歌やおどりが好きである。この国では人種差別は全くないが、実際上マオリ人のほとんどは肉体労働で生活し、白人の下働きをしているように思える。競馬やかけごとが好きで少し見劣りのする家はマオリ人の家である。マオリのために税金を払っているみたいだという声をよく聞く。つまり働

いたお金は全部飲んだり、食べたり、遊ぶことに使いはたし、後の生活費は政府の社会保障に頼るという具合である。また人口増加のパーセンテージを大きくしめているのはマオリ人であり、将来この国の問題になりそうである。

西洋ではレディ・ファーストが通常であるというの是一般論である。この国はそれを通りかしているように思う。ある会合で「日本の奥さんはだんなさまの靴をみがく習慣があるそうだがそれは本当か？」という質問をうけたことがある。それほどこの国では御主人が家庭内でよく働く。ベッドの中で朝食をずる家庭がかなりあるがそれを留意するのは御主人である。出勤の前にトイレのお掃除をしていく御主人は別に特別な存在ではない。土、日曜の休暇もペンキぬり、芝生や花壇の手入れからトマトソース作りになっているまで誠によく働く。月曜の午前中は会社で休養するのを楽しみにしている人もあるそうである。男性は生れたときから女性のために存在するような国で男の子は八、九才から台所の手伝いをする。お客様が御夫妻で来てもお茶をのんだ後、御主人同志が後かたづけをし、奥さ

んは洋服の話に花を咲かせるという調子である。未来の私のどんな様を留学させたいような国である。

日 本 熱

対日感情の素晴らしいこの国では何もかもすべて日本の物に興味をもつ人達がいる。日本人をみるために山奥から車をとばして来た人もあり、日本に行ったことのある人はそれを非常な誇りとして語り、大勢の人が日本に行くためにお金をためている。昨年のクリスマスなど各地でジャパニーズ・クリスマス、オリエンタル・クリスマスが開かれ私は大忙しであった。中国人的な仮装をして日本の祭と称し、日本の文字は素晴らしい。何とかいてあるのか」と聞かれたりした。その原因は、日本製品の大量輸入それらが安くて品質もよいという評判であり、日本が羊毛、畜産品、木材のおとくい様であること、そして日本に行ったことのある人が非常に好い印象を得て帰り、人々に語りつたえていることも一因であろう。この期間に私もよきPRをしたいと願っている。

昨年十月中旬、春のニュージランドについていらいロータリー・クラブやニュージランド・ジャパン・ソサイティーの御世話で国中をまわり、各ロータリー・クラブの会合に出席して日本の話をしたり、小学校で日本の子供達の話をし、熱心な質問をうけ、婦人会では料理、生花の講習から着物の着付けの実演にいたるまで、また新聞、ラジオにおける日本紹介、それに首府ウエリントンでは病院の栄養士実習とカレッジの料理教室で日本料理を教えながら大きな肉をふんだんに使うニュージランドのお料理を習って一カ月を過ぎた。四カ月の間、南島旅行のバスツアーで五つのホテルに泊った他はずっと一般家庭を泊り歩き、十数軒の家に泊り、二十数軒の家庭のお食事に招待された。二月下旬より北島の中央部にあるハミルトンという素晴らしい牧場のある町の病院で、栄養士として働いている。そして、あまり美味しくないが非常に合理的なこの国の食生活の長所を一層深く学びたいと張り切っている次第である。

(昭和三十一年女子高卒)

京都の中心から大阪の中心へ

京阪特急

朝 6時40分→深夜24時
終 日 20分 毎 発 車

京阪電車

のりば

京都…三条・四条・七条
大阪…淀屋橋・北浜・天満橋・京橋

みなさまの
“くらし”に生きる…

GS

バッテリー

整流器

日本電池 水銀・灯

私学の経営難

資料

湯浅 八郎

現代私学の財政が常に困難であることは内外を問わず教育界共通の現実である。これは

けだし消費一方の教育経営の本質的運命ともいべきものであらう。しかし同じく財政困難と称しても、英米諸大学のように資源の伸びが年々必然的に増加する需要に追従し兼ねるといふのと、我国私学のように根本的に支出と収入とのアンバランスを宿命とするに近しいものとの格差は余りにも大である。この本格的な相違は、恐らく私学の使命と実績とそれらに対するわが国社会の認識と評価とに由来するものと考えられるが、私は一方現にわが国の男女大学生の六割以上が私学で教育されているという私学の明白な公共性に鑑み、他方批判に急にして支持に緩なわが社会の教育関心の低浅さに徴し、私学の国庫補助すなわち国民の税金を公私教育機関に対し公正に配分する以外に根本的対策は無いのではないかと考えるのである。ただし官僚的統制や干

渉の危険を予防することを前提とするものであることは勿論である。

さて母校同志社の経営難は八十八年来歴史的事実であつて、殆ど恒常的に時の責任者を悩ましつづけて今日に至つた観がある。この点に関連して先考湯浅治郎の手記があるが、多少とも明治三十年代の母校の経営史上価値があるかも知れないと考え、それを原文のまま書き写しておくことにする。

『爰書』

今回ノ社員会ニモ出席スルヲ得ス甚タ不本意ニモアリ又遺憶ニモ候得共横井君ガ出立ノ後ニ接手シタル議題ニ付愚見ノアル処略陳シテ来会各位ノ参考ニ供シ度左ニ申上候

通則ノ改正

ハ最モ鄭重ニ致スヘキハ勿論ナレトモ既ニ改正ノ議ヲ決セシ以上今日速ニ之ヲ遂行シテ本社ノ依テ立ツヘキ処ヲ明示セシメサル可ラス然ラスシテ荏苒時日ヲ延ハスモ別段名案ノ出

ツヘキモノニ無之ニ付原案ノ如ク今回必ス決定セラレ度就テハ苟モ本社ノ性質ニ関スル智徳並行ノ教育又ハ基督教ノ道德等大綱ノ主義精神ハ条文ニ於テモ事実ニ於テモ毫末モ曲ク可ラサル事、他ノ文句ニ至テハ可成法律ノモノヲ用ヒ紛議ヲ生スルノ患ヲ避ケ無用ノ文字条項ト其重復ヲ删除シ簡明ナルモノニ致ス事。既決ノモノニ非レハ校友会ノ意見ハ参考迄ノモノトシ必スシモ採用スルニ不及事要ハ本社ノ実用ニ適セシメ併テ社会ニ信用ヲ保ツ

ヲ主眼トシタル新案タラシムヘキ事以上ノ旨意ニ基キ其成案ハ三好君ニ一任シ社員会ハ全案ニ付テ評決セラレ度ト存候兼テ校友会ノ意見ヲ全然其儘通則ニ混入シタル艸案様ノモノアリト虽モマサカ今回ノ原案ニハ非ルヘシ若シモ斯ノ如キ粗漏紛雜ナルモノニ依テ議決スルカ如キ事ニ候ハ、本社綱領ノ如キハ一点ノ文字ト虽モ訂正スルノ理由ヲ失スルヲ以テ社ノ為ニ取ラス亦飽マテ不同意ニ御座候

資本ノ借用

ニ付テハ通則綱領ニモ明文アリ第卅九条ヲ見テモ遵守スヘキハ今日ノ如キ場合ニ必要ニシテ信用ヲ内外ニ厚フスル所以ノ一ハ茲ニ在リト存シ候原案ノ如キ改革ノ必要アリトセハ資

本其者ヲ議題トシテ物議ヲ招キ易キ事ハ可成
之ヲ避ケ、普通学校ヲ改メテ尋常中学校トシ
政法学校ヲ改メテ何々学校トスルカ同校内ニ
文学科ヲ設置スル事ノ議ヲ決スヘキ事左スレ
ハ資本金ノ如キハ自然ノ結果トシテ各所属ニ
從テ歸スル処アリ發案ノ目的ニハ害ナカルベ
シ只其歴史トカ何トカ多少ノ議論モアルヘシ
ト虽モ今日世間ニ向テ条理アルノ処置ヲ要ス
ルニ依リ顧慮スルノ価値ナキモノト存候

經費不足ノ処分

ハ目下ノ難問ナレトモ差当リ本年度ノ不足借
入レトナルヘキモノ四千余円ハ今回ノ社員会
ニ於テ償却方ヲ決スヘキ筈ト存候然ラサルハ
違約ノ姿トナリ債主ニ迷惑ヲ掛クヘキニ付來
年度以後ノ即チ改良年限中ノ総不足高ヲ計算
シ第一ニ之ヲ得ルノ道ヲ講シテ速ニ着手ヲ試
ミラレ度不幸ニシテ其道ナシトセル第二ニハ
無担保永年期償却ノ債主ヲ尋スヘキ幸辛ニア
リトシテモ其利子モ数年ニ亘レハ多額トナル
ニ依リ不得止バ既収ノ資金ヲ以テ操替ルノ許
諾ヲ各寄付者ニ得ル方安全カト存候幸ニ此許
諾ヲ得置キ實際ニハ原案ニ説明スルカ如キ資
金運用ヨリシテ多少其不足ヲ補フニ如カサラ
ン乎只此運用ニ依頼シテ其金額ヲ充タサシト

スルカ如キハ先ハ出來得サル事ナルベシ從來
モ資本利子ガ經費決算上ノ表面ニ頭ハレタル
モノノミト見ルハ誤リニシテ免ニ角旧負債モ
稍片付前年度迄ニモ多少ノ不足補充シテ他債
今日ニ存セサルハ間接ニ運用シタル結果ニ外
ナラズ候、如何ナル手段モ行ハレ又トナラハ
本社事業ノ程度其幅員ニ付テ大ニ考ヘモノニ
候既ニ近來ノ成行及是レヨリ成行ントスル処
ヲ察スレハ所謂大学ナル制法理科ノ兩資本ヲ
以テ高等普通学校ヲ遣ルモノナリトスルモ強
テ不当ナル見解ナリトハ申サレマシ然ラハ六
千円以上ノ収入アル資本ニ依ル次第ナレハ或
ハ、其不足ヲ免ル、ノ道全然ナシトハ斷スル
ヲ得サルベシ去レトモ折角改良ノ經營ニ着手
シタル場合ニ在レハ斯ノ如キ引込策は免レタ
クト存シ候ガ当局者モ注意ハ常ニ爰ニ存セサ
ル可ラサル事ト信シ候

大学予科ノ新設

ハ本社事業ノ一部トシテ之ヲ設ルニ不同意ニ
ハ無之候只其程度ノ如キ充分ニ予測スル処ア
リテ數年後意外ノ出費ヲ來タスガ如キナキヲ
期スベシ到底租税ニ依リ莫大ノ支給ヲ為ス官
立学校ト同様ノ責任ハ容易ナラサルベシ右ノ
新設ニ付テモ今日償却ノ方法ナキ借財ヲ招キ

置クハ随分察スヘキ事ト存候進歩發達シテ予
想ノ如クニナレハナル丈ケ經費ニハ不足ヲ感
シムルハ事業ノ性質ノ然ラシムル処ニシテ本
社ガ百万円ノ資本ヲ得ルモ最早此以上ニハ不
用ナリト云フ時代ハ來ラサルベシ故ニ現存ノ
資本相応ノ仕事ヲ為シ資本ノ増加ヲ得ルニ隨
テ夫相応ノ擴張ヲ計ルヲ以テ大体ノ常道トス
ルハ終始忘却ス可ラサル事ト存候

舍費ノ新徴

理由アリト虽モ一層ノ事ニ全体ノ受業料ヲ增
シテ一学期五円ツ、ニ改ムヘキ事物価ノ騰貴
其他何ノ点ヨリ見ルモ此増加ヲ不当ト云フモ
ノハ恐クアラサルヘシ不完全ナル地方ノ尋常
中学ニ比シテハ高カルヘキモ是レ等モ追々増
徴スルニ至ルベシ本社ノ尋常中学ニ從事シ居
ル教員ノ優レル事同日ノ論ニ非レハ此点ハ氣
遣フニ及ハサル事ト存候時期モ生徒ノ余リ多
數ニナラサル場合カ実行スルニ容易ナルヘク
今ハ其好時期ナリ只高等部ノ現生徒ニ限り卒
業迄從來ノ通りニスルヤ否ハ実行上一問題
ニ付此辺ハ当局者ノ手加減ニ任スルヲ可トス
亦本社力從來生徒全体ヲ寄宿寮ニ入レシムル
ノ方針ヲ取り之ヲ特色トシ世間ニ吹聴シタル
処ニ對スレハ舍費新徴ハ右ニ反スル政策トモ

成ルヲ以テ一ケ年ニ三円ノ増加テ全体ニ及ホ
ス方得策ト存候此事ハ当局者ニ於テ既ニ思慮
シテ行フ可ラサルノ理由存スル次第ナレハ敢
テハ主張セサルヘシト虽モ幾分ニテモ経費ノ
不足ヲ補フハ必要ノ事ニ候

資産管理委員

ノ職務ハ申迄モナク財産ノ管理ニ止リ決シテ
本社学校ノ財政方ニハ無之然ルニ今日迄往々
事實ニハ誤認ノ跡アリ不都合ヲ感シタル事ナ
レハ此分限ハ今回ノ改正ニ判然タラシメ度自
分ハ既ニ辞表ヲ呈シタレトモ誰レカ遺ルトス
ルモ不都合ハ不都合ナレハ特ニ注意申上候

資本ノ融通

モ校長ノ請求アル場合ニ同年度内ニ操戻シ得
ルノ見込アルモノハ従来融通シタル例モアリ
社長ノ名ヲ以テ他借シテ一時ノ操替ヲ計リタ
ル事モアリト虽モ之レカ為メニ資本タル公債
ヲ担保トスルカ如キ綱領ノ精神ニ悖ルハ甚タ
不同意ニ候依テ前会ノ如キ決議ナカラン事ヲ
希望仕候

運用資本

トハ通則ニ明文アリト虽モ維持資本ノ區別甚
タ困難ナル事ニ候寄付者カ基本財産トシテ投
セラレ又ハ本社カ何々ノ資本トシテ募リタル

モノハ其全体カ所謂維持資本ト解釈スルカ適
当ニシテ此内ニ二種アリトスルハ本社ノ通則
ニ照セハ不都合ナキモノノ如クアレトモ世間
一般ハ或ハ通セサルモノナルヘシ故ニ此点モ
今回明了ニ改メラレタク候

仮決算

ニ付テノ注意ハ政法学校ニ不足ヲ顕ハシタル
点ハ調査ヲ要スヘキモノナルヘシ兎ニ角決算
ヲ報告スル迄ニハ補充ノ工夫ヲ為シテ同校ノ
部ニハ借金ノナキ事ニセラレ度候小野市原兩
君ノ在任シタル時ニモ不足ヲ告ケサル事故補
充シテ他ヨリ批評ヲ招カサル様セサル可ラス
ト存候

予算

説明ニハ借入ノ事アリテ之ニ対スル利子ハ見
ヘサルモノノ如シ資本運用ヨリ之ヲ得ルノ見
込ニ出ツルニヤ矢張予算ニ加ヘ置ク方適當ト
存シ候、受業料ノ増徴カ幸ニ行ハルレハ夫丈
ケ不足ヲ減スルナルヘシ尚之ニ止マラス何点
ト指摘シテハ却テ当局者ノ処理ノ不便モアラ
ンカ支出ノ上ニ今一層ノ減額ヲ希望仕候ガ実
際如何ニヤ充分ナル事ヲ申セハ不足高ヲ三千
円位ニ節制シ改良年限中ノ総不足高ヲ一万円
位ニ止ムル事ハ到底行ハレマシキ乎或ハ本社

ニ取リテ適任有方ナル教員ノアル場合ニハ之
ヲ雇入ルルニ差支ナカラシムル位ノ余力ハ存
シ置キ度モノニ御座候

以上ハ元ヨリ原案ト異ナル処モアリ候ハ其大
体ニ於テハ当局者ノ目的ヲ安全ニ達セシメ度
即贊成ノ精神ニ外ナラサレハ愚見ノ粗漏ヲ咎
メズ微衷ノ存スル処ヲ諒察セラレ度候但右ハ
昨夜一応原田君其他ニハ面陳シタレトモ固ヨ
リ深く考ヘルノ遑モナク小兎ヲ看護スルノ傍
原田氏出発ノ時間モ接連シ匆卒相認メ順序モ
ナク撞着モアルヘシ只欠席ノ責ヲフサク為ニ
申上候処如此ニ御座候以上

但本社大体ニ関スル意見持論ハ別ニ存ス
ルヲ以テ此点ハ兼テ御承認置キヲ乞フ

右ハ余リ体裁モ為サ、ルニ付費下ニ於テ充分
御取捨ノ上可然社員各位ニ御伝達万奉願上
候

卅一年二月十五日午前七時十五分

湯浅 治郎

原田助君

持參シテ見レハ今御出発ナリシト御家内ノ御
返答ニ付直ニ郵便ニ投シ申候也』

(同志社評議員会議長)